大学の世界展開力強化事業　H26 取組概要　北海道大学

【構想の名称】（選定年度24年度・申請区分（Ⅰ））
　人口・活動・資源・環境の負の連環を転換させるフロンティア人材育成プログラム
【プログラムの目的・養成する人材像】
ASEAN地域における人口・活動・資源・環境（PARE: Populations-Activities-Resources-Environments）の負の連環の解決のフロンティアを担う人材育成のため，本学とインドネシア，タイの6パートナー大学（カセサート大学，ガジャマダ大学，タマサート大学，チュラロンコン大学，バンドン工科大学，ボゴール農科大学）がPARE大学院教育コンソーシアムを形成し，国際連携教育システムの構築を図ることを目的とする。PAREの負の連環の解決に必要不可欠な能力として定義した4つの力（フィールド研究力，多様性容認力，開拓力及び課題解決力）を備え，ASEAN地域の発展に主導的な役割を担うことのできる人材を養成する。
【構想の概要】
PARE大学院教育コンソーシアムにおける協働教育を通じて，分野横断的教育の質の保証，フィールドとラボの教育連携モデルの形成及び異分野専門家集団PARE同窓生ネットワークの形成を促し，もってアジアのフィールドにおいて同地域の発展に資する人材の輩出及びネットワーク形成を図る。

■　質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 平成25年度に構築した「学生による自己評価表（セルフアセスメントシート）の記入」「コンソーシアム大学による共同評価」を継続して実施することで，厳格な成績の管理を行ない，同枠組みの定着化を図った。
○ 平成27年1月に第3回合同ファカルティ・ディベロップメント（FD)ワークショップを開催。本学同様「大学の世界展開力強化事業」採択校である慶應義塾大学教授を講師として迎え、オンラインによる授業運営に関する最新の教育方法について学んだ。
○ 平成26年11月に外部評価委員会を開催し，これまでの取組の評価を行なうともに，補助金支援終了までの2年間で検討すべき課題を整理した。また課題解決のため，将来展開ワーキンググループを設立した。

〈外部評価委員会〉

■　交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

〈 平成26年度ショートプログラム＠インドネシア〉

○ 平成26年度実施の交流プログラムの内容

平成25年度に構築した「PARE基礎科目」（「PARE基礎論」と「PAREショートプログラム」）「PARE発展科目」「PARE専門科目」の講義体系に沿い，交流プログラムを以下のとおり実施。
・「PARE基礎論I, II, III（各1単位）」を本学で開講し，本学および海外のパートナー大学の学生計162人以上が受講した。基礎論IIIは、電子教材を用いたインターネット上での講義受講とディスカッションを中心とした教室での講義を組み合わせて実施した。
・「PAREショートプログラム（3単位）」を，北海道（平成25年8月28日～9月11日，15日間），およびインドネシア（平成27年3月9日～20日，12日間）で開講し，本学およびパートナー大学の学生計87名が受講した。6月にタイで「PAREショートプログラム」を開講し，学生計39名が受講予定であったが，タイ国軍による「戒厳令」発令をうけ，開講を中止した。
・本学およびパートナー大学が提供する「PARE発展科目」「PARE専門科目」を33名の学生が受講し，単位を取得した。
・本プログラムの修了要件を満たした学生31名に対し，双方の大学の副学長が署名したPARE共同修了証を授与した。

○ 平成27年度に向けた準備状況

平成27年6~7月、8~9月、1~2月に「PARE基礎論」、8月25日～9月8日に北海道で、3月7日～21日にタイで「PAREショートプログラム」を開講することを決定した。 「平成27年度履修の手引き」を日本語と英語で作成し，各大学で3月末から学生の募集を開始した。また、平成27年度「PAREインターンシップ」科目開講に向け、学生の試行的派遣を実施した。

■　交流プログラムにおける学生のモビリティ

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	17	3	24	30	30
学生の受入	18	40	72	30	30

注）H24・H25・H26は実績、H27以降は計画

○　日本人学生の派遣

・インドネシアの「スプリングスクール2015」に，18名を派遣。
・インドネシアのボゴール農科大学に1名，ガジャマダ大学に1名の学生を，それぞれ1セメスター派遣。インターンシップ科目の試行により、タイのカセサート大学に学生4名を派遣。

○　外国人留学生の受入れ

・本学で開講したサマースクールに学生計41名を受入。また学生31名を本学の特別聴講学生として受入。

■　日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 本学に設置したセントラルオフィスと各パートナー大学に設置したリエゾンデスクが連携し，学生の派遣・受入に必要な手続を行うとともに，学生寮など安価な宿泊施設の確保，語学（日本語，現地語）授業の提供等を行った。また，インターネットを通じた渡航前オリエンテーションを行った。
○ 日本企業のインドネシア駐在員事務所で働く北大同窓生と交流する機会を設けるため，北大同窓生向け懇親会を開催し、スプリングスクールを受講した学生も参加した。

■　教育内容の可視化・成果の普及

○　プログラムのパンフレットを作成した他，履修ガイドや進捗状況をプログラムのウェブサイト（http://www.4pare.org/）や，ブログ（http://pareproject.blogspot.jp）等で公開した他，大学関係者が集まる国内・外の会議でプログラムを紹介した。
○　プログラムの教育内容と成果の普及のため，プログラムを紹介する冊子を作成した。